



1. 紅葉に染まる霊山の魅力に触れ、楽しみながら登る子どもたち / 2. 子どもたちと交流を深める伊達なふるさと大使の長沢裕さん / 3. 小中学校の児童生徒で班を編成し、霊山登山に臨む / 4. 道先案内人会の友大靖子さんが無事に下山した子どもたちに「おかえり」と声をかける

「地元の山の魅力に触れる」



当日の様子を動画で
市公式 Youtube

紅葉の見ごろを迎えた霊山を霊山地域小中学校の児童生徒が10月27日に登山し、霊山の魅力を体感しました。山頂付近の霊山城跡では、霊山道先案内人会会長の森藤いつ子さんから霊山にある自然を、同会の菅野家弘さんから霊山の歴史の説明を受けました。下山後に行われた解散式では、一緒に登山した伊達なふるさと大使を務める長沢裕さんが「登山の気持ちいい想いを大切に、これからの支えにしてください」と子どもたちへエールを送りました。子どもたちは自然と歴史を感じつつ、児童生徒間で交流を深め、楽しんでいる様子でした。



市長コラム 第48回

「読書のすすめ part2」

須田博行

令和2年4月号の市長コラム

ろです。

『読書のすすめ』の中で、私は「1日30分読書しましょう」と書きました。その本人がどれだけ実践してきたか疑問が残るところですが、以前より読んでいるのは間違いないありません。推理小説や歴史小説、趣味や実用書、自己啓発書など、おもしろそうと思ったものはジャンルを選ばず読んでいます。

前のコラムにも書きましたが、読書の効果は、ストレス解消やリ

最近よく感じるのは、テレビや動画で見た映像は容易に頭から消えてしまうのに、小説など文字で描き出された情景はいつまでも鮮明に脳裏に残るということです。

これはどちらかというと受け売りで書いたのですが、その後実践して気づいたことは、①話や文章で言葉が出るようになった（ボキャブラリー増加）、②本が読める程度の晩酌で我慢するようになった（健康増進）、③寝付きが良くなった（朝スッキリ起きられるようになった（ストレス減少）等々、今は確かな効果を実感しているところ

ところで、今読んでいる三浦綾子の小説「泥流地帯」の中で、主人公の祖父が開拓のために福島から北海道に移住したとあります。物語の内容は省略しますが、年代的には、伊達郡大田村（現保原町大田地区）の村長、菊田熊之助氏が旭川市ペーパン地区の開拓のために移住した頃であり、もしかするとその祖父は菊田氏がモデルなのではないかと思っています。

効果なのかもしれません。何はともあれ、まずは本を読んでもみましょう！ 楽しいですよ。